

千両＝3億円集めて、ピンボー脱出！！

一世一代の“金貸し”事業で、疲弊する宿場町を救った町人たちの物語。
実在した人々の感動の歴史秘話を、豪華キャストでユーモアたっぷりに映画化！！

「殿、利息でござる！」

豪華キャスト続々発表！扮装姿を初披露

竹内結子：本格時代劇映画、初出演

松田龍平：10年ぶりの時代劇出演

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2010年に映画化されたベストセラー『武士の家計簿』などの著作で知られ“平成の司馬遼太郎”との呼び声も高い磯田道史氏の近著「無私の日本人」(文春文庫刊)の一編「穀田屋十三郎」を、「白ゆき姫殺人事件」「予告犯」「残穢」等、今最も注目を集める中村義洋監督が映画化。先日情報解禁致しました阿部サダヲ、瑛太、妻夫木聡の出演情報に加え、豪華キャストの出演情報を発表！

さらに、ついに勢揃いしたキャスト陣の扮装姿を初公開致します。

今から240年ほど前の江戸中期、仙台藩吉岡宿。年貢の取り立てや労役で困窮する宿場町を守るため、知恵と工夫と決死の覚悟で立ち上がり、ついに地域を立て直した住人たちがいた。実在した穀田屋十三郎ら庶民9人が、藩にまとまった金を貸し、毎年の利子を全住民に配る「宿場救済計画」を立て、奔走する姿が、現代によみがえります。

造り酒屋を営むかたわら、宿場町の行く末を心から憂える主人公・穀田屋十三郎(こくだや・じゅうざぶろう)を演じるのは、阿部サダヲ。町一番のキレ者である茶師・菅原屋篤平治(すがわらや・とくへいじ)に瑛太。そして十三郎の弟で、吉岡宿一の本店・造り酒屋の浅野屋の主・浅野屋甚内(あさのや・じんない)には妻夫木聡。

今回、そんな彼らと共に演ずる多種多様な豪華キャスト10名を発表。
また、阿部サダヲ、瑛太、妻夫木聡を交えた13名勢揃いの扮装写真もお披露目致します。

竹内結子さんの本格時代劇映画への出演は初！！その役どころは吉岡宿の住人が集う煮売り屋(飯屋)のおかみで未亡人の“とき”。竹を割ったような、さばさばとした性格もあって住人たちに愛され、さまざまな情報が集まる、現代でいうところの“ハブ的”な存在。阿部さん演じる男やもめの主人公・穀田屋十三郎がほのかに想いを寄せる・・・そんなふたりの恋の行方も気になるところ。

また、松田龍平演じる萱場奎(かやば・もく)は、藩の財政を預かる出入司(しゅつにゆうつかさ)をつとめる役人。庶民の「殿に金をお貸しする」という奇想天外な申し出を無情にも拒否し、冷酷無比な切れ者を演じきります。松田さんは「長州ファイブ」(06年)以来、じつに10年ぶりの時代劇映画出演となります。

公開日は2016年5月14日です。

2016年5月14日。殿、全国公開でござる！

超豪華キャストが勢揃い!!

穀田屋十三郎（阿部サダヲ）／造り酒屋

思い込んだら試練の道を行く男

菅原屋篤平治（瑛太）／茶師

（自称）吉岡宿イチの知患者

浅野屋甚内（妻夫木聡）／造り酒屋、質屋

“ケチでしみったれな”金貸し。十三郎とは兄弟

とき（竹内結子）／煮売り屋

皆に愛される飯屋のおかみ（未亡人）

遠藤幾右衛門（寺脇康文）／肝煎

年老いて生まれたわが子を愛するイクメン。

頼りがいのある男

穀田屋十兵衛

（きたろう）／味噌屋

十三郎の叔父。

ちょっぴり思い込みが激しいがやさしい男

千坂仲内（千葉雄大）／大肝煎

武士の身分に憧れる純真な百姓。

若いのに町を取りまとめる

早坂屋新四郎（橋本一郎）／雑穀屋

極端に優柔不断。最大の関心事は温泉堀り

穀田屋善八（中本賢）／小間物屋

おときを狙うハンター♥見栄っ張りなところもある

遠藤寿内（西村雅彦）／両替屋

噂好きで、ええかつこいで、疑り深い男



萱場柰（松田龍平）／出入司

冷酷無比な藩の役人。切れ者

きよ（草笛光子）

十三郎、甚内の母

先代・浅野屋甚内十三郎（山崎努）

十三郎、甚内の父

■作品概要

原作：磯田道史『無私の日本人』所収「穀田屋十三郎」(文春文庫刊)

出演：阿部サダヲ 瑛太 妻夫木聡 竹内結子 松田龍平 他

監督：中村義洋

制作：松竹、東日本放送

製作：「殿、利息でござる！」製作委員会

配給：松竹

公開：2016年5月14日

クレジット：(C)2016「殿、利息でござる！」製作委員会

撮影：2015年7月6日～8月末

撮影地：山形、宮城、ほか

公式HP：www.tono-gozaru.jp

2016年5月14日。殿、全国公開でござる！

■とき(竹内結子) 出演にあたってのコメント

「残穢」に続きこんなに早く中村監督作品に呼んで頂けてとても嬉しく思います。

時代劇映画初ということでメイク、衣装、美術、セットなど全てが新鮮で和やかさと良い緊張感をもって撮影に臨むことが出来たと感じています。

この作品は、町を救いたい一心で、人のために尽くす庶民たちのお話なのですが、

何でも誰かに言いたがり拮据たがりの時代に、報われたい欲を捨て敢えて「つつしむ」ことを選んだ人々の、その心の在り方がとても美しいと私は思います。

そんな人たちを近くで見ていたトキとしては、慎み深い皆さんに代わり、

是非、多くの方にこのことを知ってもらいたいと願っております。

■中村義洋監督 キャスティングにあたってコメント

今回ほどキャストに時間を使った映画はありません。

僕らのハードルが段々高くなっていったせいかもしれません。それは決して、名のある方を、ということにこだわったわけではなく、九人の篤志家と、見守る女性、そして酷薄伶俐な御上と、バランス(年齢、顔、形や、観客が思っているであろう印象と、それへの裏切り等)を考えながら、一人一人、慎重に、時間をかけてキャストにしてみました。今どき何とも贅沢な時間の使い方をさせて頂いた気がします。

サダヲさん、瑛太くん、妻夫木くんは、撮影前のマスコミ発表でも言った通り「いつか」という時のためにとっておいた「ここぞ」のキャストです。それにしてもここまでハマる、というかハマてきてくれるとは思いませんでした。役どころがそれぞれ「真心の人」「頭脳の人」「冷たい人」といった按配ですが、それが物語の中で二転三転する様を楽しんで頂けたらと思います。

そして九人の篤志家の他の六人の役どころですが、寺脇さんには「人情の人」、千葉くんには「優柔不断の人」、きたろうさんには「揺れる人」、西村さんには「名誉欲の人」、中本さんには「勘違いの人」、橋本くんには「ケチな人」というのを割り振らせて頂きました。また皆さん、見事にハマって(ハマて)頂きました！ もちろんこの六人も、単にそれだけではなく、そこから何度も揺れ動きますので、彼らが六年という歳月のなかでどう変わったか、というのも観て頂きたいところです。

竹内さんの役の「しま屋おとき」は全登場人物中ただ一人、磯田さんの書かれた『無私の日本人』にも、その元ネタの『國恩記』(実話です！)にも登場しないキャラクターです。しかしこの時代の女性は、たとえどんなに立派な行動をしても表に出ない、つまり、記録に残されない、というのが常であったようで、だったら逆に、史実を左右するような活躍をしても記録に残してもらえなかった可能性も大で、それなら、主人公たちに愛され、時には檄を飛ばし、計画の一翼を担うような天真爛漫の女性であってもおかしくなろう、ということで、そうなったら真っ先に思い浮かんだのが竹内さんでした。ほとんどアテ書きです。書いている途中で、おや？ もしや？ と思って軽くウィキペディアでプロフィールを調べたら、竹内さんに時代劇の経験がない、というのも大きかったです。ああ、結子さんの日本髪を一度でいいから拝んでみたい、という思いも重要な決め手の一つであったことは否めません。ちょうど前作の(といってもまだ公開されてませんが)『残穢』とは真逆のキャラクターになるのも魅力でしたが、あまりにも撮影が近かったため「あれ？ メガネはどうしたの？」とってしまうのがちょっと困りモノでした。

対する御上・萱場全役の龍平くんは、実は彼も僕の中では「ここぞ」の人で、瑛太くん同様、『アヒルと鴨のコインロッカー』から9年、一緒にやれる日をずっと待ちわびていた俳優です。お話の流れ上、この役には本当に「高い壁」になってもらわねば困るので、龍平くんのいい意味での「得体の知れなさ」に賭けてみました。現場では、冷淡に見えるよう脚本に「薄く笑う」などと書いておいたのですが、そういうのを龍平くんは全然やってくれず(笑)、なのに僕の想像をはるかに超える、ゾッとするまでの冷淡さを見せてくれて、これはもう本当に、最高の誉め言葉として、得体が知れない俳優になったなああと、舌を巻かせて頂きました。

草笛さんは、大ファンなんです。実は私『必殺』シリーズのマニアで、ご覧になった方なら分かって頂けると思いますが、草笛さん演じた「おせいさん」に心打たれ、いつか自分が時代劇を撮る時が来たら絶対出て頂きたい！ と切望していたキャストです。現場ではため息をつきながらモニターに魅入り、贅沢な時間を過ごさせて頂きました。

山崎さんは、実は一番始めに決めたキャストです。謎の多い役なので詳細は語れませんが、原作を読み終わって3秒後には、山崎さんがファーストシーンとラストシーンに登場する、と決めて脚本を書き始めました。何も言いません。とにかくまた(『奇跡のリンゴ』に続き)、ものすごいお芝居でした……。

2016年5月14日。殿、全国公開でござる！

千両集めて、ビンボー脱出！！

¥300,000,000
3億円

庶民 VS お上！

破産寸前、絶対絶命の大ピンチ。
必要なのは3億円！？ビンボー庶民が、
殿を相手に一世一代の大勝負！一発逆転！
身の程知らずな男たちが、お上相手に立ち向かう！

“知恵”と“勇氣”と“我慢”の【^{ザニバトル}銭戦】が今、はじまるー。



殿、利息でござる!

実話

藩の重い年貢により、夜逃げが相次ぐ宿場町・吉岡宿に住む十三郎（じゅうざぶろう）は、知恵者の篤平治（とくへいじ）から町を救う計画を聞く。それは藩に大金を貸付け、利息を巻き上げる「庶民がお上（かみ）から年貢を取り戻す」逆転の発想だった！江戸時代、実在した人々の奇跡と感動の歴史秘話を、中村義洋監督がユーモアたっぷりに映画化。原作は「武士の家計簿」などの著作で知られ「平成の司馬遼太郎」との呼び声も高い磯田道史の「無私の日本人」（文春文庫刊）の一編「穀田屋十三郎」。造り酒屋を営むかたわら、町の行く末を心配する主人公・穀田屋十三郎（こくたや・じゅうざぶろう）を演じるのは、阿部サダヲ。共演に瑛太、妻夫木聡、竹内結子、松田龍平、草笛光子、山崎努など超豪華キャストが集結。新たな娯楽時代劇大作が誕生します。

■ストーリー

金欠の仙台藩は百姓町人へ容赦なく重税を課し、破産と夜逃げが相次いでいた。さびれ果てた小さな宿場町・吉岡藩で、故郷の将来を心配する十三郎（阿部サダヲ）は、知恵者の篤平治（瑛太）から宿場復興の秘策を打ち明けられる。それは、藩に大金を貸し付け利息を巻き上げるとい、百姓が搾取される側から搾取する側に回る逆転の発想であった。計画が明るみに出れば打ち首確実。千両＝三億円の大金を水面下で集める前代未聞の頭脳戦が始まった。「この行いを末代まで決して人様に自慢してはならない」という“つつしみの掟”を自らに課しながら、十三郎とその弟の甚内（妻夫木聡）、そして宿場町の仲間たちは、己を捨てて、ただ人のために私財を投げ打ち悲願に挑む！

2016年5月14日（土）大願成就！